

第3回鎌倉市市民活動推進委員会 議事録

- 日時 令和元年11月26日(火) 18:00~20:00
- 場所 市役所 第3分庁舎 講堂
- 出席委員 原田委員長、土屋副委員長、東樹委員、田島委員、西畑委員、相川委員、水澤委員、村井委員、山口委員(以上委員9名出席)
- 事務局 市民生活部: 齋藤部長、曾根次長、荻田課長補佐、大島職員、久祢田職員
- 傍聴者 2名

開会

- 市民活動及び協働の推進についての指針素案について
事務局から資料3「(仮称)市民活動及び協働の推進についての指針素案」及び資料4「(仮称)市民活動及び協働の推進についての指針素案構成比較」について説明。

(委員長) 事前にいただいた意見なども含めて議論していただきたい。細かい文言については、全体のバランスを勘案し、事務局で確認をお願いしたいが、どうしても表現を修正してほしいということであれば、ご意見いただければと思う。

資料7に基づいて確認していく。「1 指針策定の目的」について、2ページで記載された意見やこの他に意見がある方、お願いしたい。

(委員) この項目について異論はないが、ジブンゴトという表現が一般的なのか気になった。また、記載する場合、カタカナ表記で良いのか。

(委員) 条例を検討していた委員会ですべて使っていた言葉で、当事者意識を持って行動することが重要であることから、あえて目立つ形で『ジブンゴト』という言葉を使っていた。

(委員) ジブンゴトという言葉が漢字とカタカナで記載されていた場合、カタカナのほうがインパクトがあり、印象に残ると思うのでこのままの表記にしていきたい。

(委員) カタカナは若者言葉な印象がある。

(委員) 新しく作った言葉として捉えていた。定着するか古くさい言葉になるかは、わからないが、指針も作り変えることを考えると、今はこのままで良いと思う。

(委員) サブタイトルを考えていく上でのキーワードになるのではないかと。

(委員) 他人事に対する反対語としてこの言葉があっても良いと思う。

(委員長) 全体のバランスを考えて、基本は残すということをお願いしたい。

次に、『主体』という表現がわかりにくかったり何度も出てきたりするので、整理をしたほうが良いという意見があるが、事務局で整理をしてほしい。もし他の言葉で言い換えられるのであれば、修正していただければと思う。続いて、『女性の社会進出』については、一般的な傾向として記載していると思うが、意見はあるか。

(委員) 読む人の立ち位置で変わってくると思う。

(委員長) 特に異論がなければ、このままで良いと思う。

最後の段落の主語については、行政文書であるので、市で良いと思う。

この項目については、以上でよいか。お気づきの点があれば、後からでもご意見いただ

ければと思う。

続いて、「2 基礎的な用語の説明」について、4 ページで記載された意見やこの他に意見がある方、お願いしたい。

(委員) これまでの議論の中で、記載したほうが良いということになっていると考えるが、中間支援組織にだけ具体的な例示を挙げていることについて、項目のバランスを考えると疑問に思う。記載することが間違っているという意見ではない。

(委員長) 中間支援組織がなじみのない言葉であるため、あえて記載していると思う。全体のバランスを考えて、参考としてではなく、本文に記載するなど工夫してほしい。一方で、この部分についてはもっと具体的に記載してほしいとの意見もある。全体のバランスを考えて、出来るだけ簡易に記載していただければと思う。

(委員) 市民活動センターやかまくらボランティアセンターはそれぞれ URL を持っていると思う。URL を記載することは行政的に問題はあるか。

(委員長) URL を記載することは問題ないと思うが、更新が問題である。

(委員) かまくらボランティアセンターは、社協のボランティアセンターという理解で良いか。

(事務局) そのとおりである。

(委員) これまでの議論で中間支援組織がわかりにくいと言われてきて、市民からは市民活動センターの職員は、市の職員かという質問をいただくこともある。そういう意味で運営主体をはっきり記載したほうが良いと考えた。

(委員長) ここに記載する趣旨は、中間支援組織とは何かがわかれば良いと思う。

(委員) 項目のバランスを考えると、そこまで詳しく記載しなくても良いと思う。

(委員) 素案の内容で良いのではないか。

(委員) 中間支援組織がわからなかった人が、ある程度理解できれば良い。

(委員) だとすると、読みやすさも考えて、名称程度で良いのではないか。

(委員長) ここは、あくまでも例示なので、さらっと記載していただければと思う。記載の仕方は、素案をベースに考えていただければと思う。

(委員) 市民活動団体等の説明の部分で、「市民活動を行うことを主な目的とする」とあるが、市民活動を行うことが目的ではなく、課題解決や価値の創造を目的として活動するのが市民活動団体であると考えるので、表記の仕方を「市民活動を行う団体又は個人」と修正していただきたい。

(委員長) そのとおりであると思う。修正をお願いしたい。

6 ページの市民活動センター登録団体の活動分野別一覧で記載している①から⑰の項目は、現在の特定非営利活動法人促進法の項目と合致していないため、現在の法律に合わせるか、注意書きで言葉を補うなど修正してほしい。

続いて、「3 市民活動を取り巻く現状と課題」について、11 ページで記載された意見やこの他に意見がある方、お願いしたい。

(委員) 3 (1) で記載したタイトルについて、推移と謳っているのにも関わらず、本文では団体数の推移以外のことも説明しているため、タイトルと本文が合っていない気がする。記載の仕方を工夫したほうが良いのではないかと思った。

(委員長) 具体的には、どのあたりか。

- (委員) 「こうした～」以下の文書は、市の市民活動の現状を記載していて良くわかるが、タイトルに記載のある団体数の推移と合っているかどうか疑問に思った。単純にタイトルに「状況」という言葉を付け足せば良いということではないが、何か工夫をすれば、このままの文章でも良いかと思う。
- (委員長) タイトルを修正するか、項目を増やすかだと思う。「こうした～」以下の文章は、何か根拠があるか。例えば、「アンケートの結果からこういう傾向があります。」と書ければよいと思う。表記の仕方はタイトルを現状と傾向にするとかアンケートによればとかの文言を記載するなど工夫してほしい。
- (委員) 9 ページ (3) のタイトルについて、この指針は鎌倉市が策定するものであるため、『市民活動団体等との協働』のほうが良いのではないか。
- (委員長) 指摘のとおり修正するか「協働に関すること」にするか等整理していただきたい。
- (委員) 市民活動団体から、高齢化が課題だということをよく聞くが、高齢化自体が課題ではなく、それを起因とするプラスアルファのことが要因と考える。その要因を考え深堀していくことが重要であると思う。
- (委員) アンケートを実施し、指針を策定したのち具体的な施策を考えていくスケジュールになっていると思うが、今ご意見のあった要因の部分をどこまで入れるかを整理したほうが良いと思う。
- (委員長) アンケート結果からどこまで読み取れるかがひとつ問題になると思う。
- (事務局) 今回のアンケートでは、要因を深堀するまでの項目になっていないため、分析は難しいと思う。
- (委員) 分析ができないことは、承知しているが、高齢化自体を課題として捉えると本質とズレてしまうと思う。高齢化をあまり強調しないほうが良いかと思う。
- (委員) 市民活動団体の活動に関する課題を聞くアンケートを実施すると、だいたいお金の問題が出てくるが、今回はお金ではなく、人の問題が多く挙がっていて驚いた。鎌倉の団体の特徴的な課題なのかもしれない。
- (委員長) 記載の仕方の問題だと思う。高齢化が問題というよりは、新しい人が入らなければ高齢化していくわけで、外部の人が入りにくい環境でなかったか、地域との交流がしにくい状況でなかったかなど、要因があると思う。この指針では、高齢化の問題などという文言を削除することで、解決できないか。
- (委員) 高齢化は、実際に活動している人が実感していることである。高齢化の問題という文言を削除すると文書的に意味がわかりづらくなる。
- (委員) 私はこのままで良いと思う。会員の高齢化の課題は事実である。裏にある背景はここでは記載できないのではないか。
- (委員) 市民活動は、継続することが目的ではなく、ミッションを達成することが目的であると思うので、その目的をしっかりと記載し、把握されたうえでこの文章になっているのであれば良いと思う。
- (委員長) このアンケートだけでは、高齢化によって活動できないとは言い切れないので並列要因になると思う。「会員の減少による活動継続の困難や高齢化によって～」というような表現でいかがか。
- (委員) そちらのほうが良いと思う。

(委員長) 事務局は、並列して記載してみて、アンケートの趣旨に沿うかどうか確認してほしい。

(委員) (3) 市との協働について、「市職員が協働の重要性について理解」とあるが、重要性では抽象的になってしまうので、協働の目的や在り方という表現のほうが具体化されるのではないかと。

(委員長) 今の意見で、表現を修正してほしい。

(委員) (3) 市との協働に関することについて、市提案の実施率が高いが、市民活動団体提案の実施率が低い理由はどのようなことか。アンケート結果から読み取れるか。

(事務局) 実施率については、アンケートの結果ではなく、これまで市と市民活動団体とで行ってきた相互提案協働事業の実績を記載している。

(委員長) 市民活動団体提案の実施率が低い原因は、わかるのか。

(事務局) 市からの提案事業であると、市が方向性を示し、その事業に賛同した市民活動団体と協働することになるが、市民活動団体提案であると、担当課の事業にマッチしていないケースなどがあり、この実施率になっているのではないかと予想している。

(委員長) 他の自治体も同じような状況であると思う。

(委員) その課題を解決するための施策を記載するのか考えないといけない。

(事務局) そのあたりは市の責務や具体的な施策に記載して、課題解決できるようにしていきたいと考えている。

(委員長) それでは、この部分については、修正なしということにしたい。

続いて、「4 役割」について、14 ページで記載された意見やこの他に意見がある方、お願いしたい。

(委員) (3) 市民活動団体等の役割について、文章が間違っているということではないが、1 段落目と 2 段落目でほとんど同様の内容であるため、1 段落目を削除し、2 段落目で十分説明できるのではないかと。もしくは、文章を整理しても良いのではないかと。

(委員長) この項目は、役割を説明しているので、むしろ 1 段落目とその説明になっている気がするが、いかがか。

(委員) 役割だけであれば、1 段落目の内容で十分であると思うが、具体的に記載しわかりやすく説明するために、2 段落目の内容があると思った。

(委員長) 「～を努めるものとする」という表現で統一しているような気がする。

(委員) 両方の段落を残すのであれば、文章が整理されていれば良い。

(委員) 2 段落目を「また」でつなぐなど工夫できるが、内容としては両方残した方がわかりやすく良いと思う。

(委員長) 1 段落目に結論があって、2 段落目でその効果を記載する構成になっていると思う。つなぎの接続詞などを工夫してほしい。

(委員) (4) 中間支援組織の役割のうち、四角で囲っている市民活動センターの役割については、わかりやすく記載するために例示を出していると思うが、なぜ市民活動センターだけを記載するのかがわかるように記載したほうが良いと思う。

(委員) 市民活動センターの役割は、例示か。地域のつながり課の事業として指定管理している施設であると思うので、この部分に必要なことを記載しておくことで将来的に予算の確保等に役立つのではないかと考えた。

- (委員) これが例示かどうかは、見せ方の問題でもある。中身については、問題ないと思う。
- (委員長) 「こういう役割を果たしましょう」という文章であれば、「参考」をつければよいと思う。ここでは具体的な施設の役割であることを記載すればよいと思う。
- (委員) かまくらボランティアセンターのことは記載しないのか。
- (事務局) 事務局の意図としては、例示や具体例ではなく、市民活動センターは当課の所管であり、今後のセンターの役割を示すものとして記載している。内容としては、前回の指針案で具体的な施策として記載していた市民活動センターに関することについて、今回は役割として記載している。
- (委員長) 市民活動センター以外にも中間支援組織は存在するため、「参考 市民活動センターの役割」という項目にするなどタイトルを工夫すれば良いのではないか。
- (事務局) 「参考」では、意味合いが弱くなってしまわないかと懸念する。
- (委員長) 他にも中間支援組織がある中で、市民活動センターだけ特出しして記載することは唐突感がある。
- (委員) 条例を検討する際も、中間支援組織が重要であるということは何度も議論されてきて、役割を具体的に示さないと、市民活動が活性されないということになっていた。事務局はそのあたりも加味して、具体的に記載していると考える。
- (委員長) 文章自体は良いと思うが、全体のバランスをみると、他にも中間支援組織があるのになぜここだけ例示を出すのかがわからない。市民活動センターの役割というタイトルを工夫することや説明文を記載するなどしてほしい。
- (事務局) 表記の仕方は工夫する。
- (委員) 市民活動センターを特出ししているのですが、気になったのだが、財政的な支援のうち市民活動センターに関する支援の記載がなかった。市民活動センターの役割を特出しで記載するのであれば、それに見合う施策（支援）を記載しても良いのではないか。記載する場所はこの項目ではないかもしれないが。
- (委員) この項目に記載することではないと思うが、市民活動センターの役割が重要であれば、それなりのバックアップは必要だと思う。気持ちだけでは限界がある。
- (委員) 記載するのであれば、市の責務で「そのための予算を確保します」と言えれば良いが、なかなかそういうわけにもいかないと思う。
- (委員長) 市民活動センターの役割を特出しし、四角で囲ったのにはそれだけ重要であるためであると思う。「そのための予算を確保します」と指針で記載できるか。
- (事務局) 具体的な施策で記載した内容は予算がともなうことが多く、市民活動センターに関することだけについて、予算を確保すると記載するのは難しい。市民活動センターについては、市の事業であり指定管理者制度を用いて団体が運営している。ここで記載されている役割を果たすためには、仕様書で示していくなど必要があると思う。
- (委員長) 例えば、18 ページ具体的な施策（2）ア市民活動団体等の活動資金の支援の文章で、「市民活動団体等や中間支援組織への寄付を促進する環境づくり」と修正することはどうか。中間支援組織への財政的支援は指定管理料として実施しているので、記載することは、問題ないと思う。委員の意見を反映するなら、具体的な施策であると思う。
- (委員) 事業を遂行するためにどのくらいの予算が必要なかは検討する必要があると思う。財政的支援については、記載したほうが良いと思う。

(委員長) 金額の多寡は記載できないが、実際にやっているのであれば記載しても良いと思う。事務局でも検討し、工夫してほしい。

(委員) 市民活動の推進のための予算がない中で話が進んでいき、不安である。市民活動の推進にかかる予算はしっかり確保する必要がある。

(委員長) 市役所の場合は、原課での調整の他に財政部門での調整など審査があると思う。予算を確保する上でこの指針が少しでも根拠となればと思う。

続いて、「5 市民活動の推進に向けた考え方と協働の原則」について、17 ページで記載された意見やこの他に意見がある方、お願いしたい。

まず、つながる鎌倉条例第9条に規定された協働事業について、条文を参考としそのまま記載しているが、この文章を残すか削除するか意見が割れている。本文には直接関係ないので、どちらでも良いと思うが、いかがか。

(委員) この指針を読む人は必ずしも条例を読んでいる人とは限らないので、残しておいて良いと思う。

(委員) 私も掲載したほうが良いと思うので、このままで良いと思う。

(委員) 全体のバランスを考えると不要かと思ったが、記載していけないものではないので、残しておいても良いと思う。

(委員) 全く違和感はなかったなので、このままで良いと思う。

(委員長) それでは、この部分は残すように扱ってほしい。

(委員) (2) ウ目的共有で「相互に事業の内容を理解し」とあるが、内容だけではなく、目的を理解することが重要であると考えるので「目的及び内容を理解し」に修正したほうが良いのではないかと考えた。

(委員長) 今の意見のとおり、「目的及び内容」という文言に修正し、他の部分と整合性がとれているか確認してほしい。

続いて、「6 具体的な施策」について、20・21 ページで記載された意見やこの他に意見がある方、お願いしたい。

(委員) (6) 中間支援組織との連携に関することに記載していただくのが正しいかどうかはわからないが、これまで鎌倉でやってきたことだけで何かを判断してきた気がしていて、最近も誤った判断が下されそうになったし、鎌倉は市民活動センターの歴史はあるが、中々好事例を積み重ねてこなかったのではないかと感じている。そのため、市内だけではなく、市民活動センターが広い知識をもち、他地域の様々な事例を知り、生かしていく必要があると考える。

(委員) 今のご意見は、例えば、県や日本 NPO センターが行っている CEO 会議のネットワークを活用しながら、事例を学んでいくことが重要だということだと思う。

(委員) 連携しても課題を共有できないと何もできないのではないか。今の意見を反映すると広いネットワークをつくるために、「全国ネットワークで市内の枠を超えた」などの文言を追記し修正したほうが良いと思う。

(委員長) ネットワークには二つの意味があると思っていて、一つは問題解決のための関係性をつくること、二つ目は、相互扶助の関係（ネットワーク）をつくっていくかということであり、助け合いとか支え合いの関係が NPO の大きな役割であると思う。ネットワークと表現すると抽象的な印象がある。

(委員) 必要なテーマがあるから、ネットワークがあると思う。災害をテーマにしたネットワークが増えてきて、今後もその重要性が高まるのではないかと思う。

(委員) この項目は市の施策であるため、具体的な内容であれば、先ほどの市民活動センターの役割に記載するべきなのではないか。

(委員長) 市が支援することも大事であるが、その支援を生かしていろいろな団体等がつながる施策を市民活動センターが考えるという趣旨であると思う。このままの表現では良くないということではないが、もう少し踏み込んだ言い方ができればと思う。ネットワークをつくることで、既存の枠組みに捉われない新しいことにチャレンジできたりすると思う。

(委員) 一段落目があることで、市内に限ったことのように読めてしまうのではないか。削除することにより、市内だけではなく、広いエリアで捉えられるのではないか。例示を出すかはわからないが、災害をテーマにしたネットワークなどを記載すると分かりやすいと思う。

(委員長) たしかに、一段落目は重複のような気がする。良い表現があればと思うが。一旦、ペンディング（保留）とさせていただき、その他の議論が終了したのち、再度ご議論いただければと思う。その他の意見について伺いたい。

(委員) 項目のタイトルである「具体的な施策」について、例えば（１）「場の提供をします」、（２）「情報提供します。」と記載してあり、ある程度は具体性があり市としての決意はわかるが、一方で中間支援組織の連携に関することなどは具体的に記載することが非常に難しいと思う。そのため、タイトルを「具体的な施策に向けて」と修正しても良いのではないかと思った。

(委員) 今のご意見に賛成である。この指針は土台であるため、項目タイトルである「具体的な施策」は少し違う気がする。

(委員) ただ、前回の指針案を作成した方々の思いもあると思うので、思い入れの部分を強調するのであれば、タイトルは現在のままで内容をより具体的に記載する必要があると思う。

(委員) タイトルを「具体的な施策」にすると、課題なども具体的に書かないといけないと思う。タイトルは「具体的な施策に向けて」で良いと思う。

(委員長) それでは、意見のあったタイトルで修正をお願いしたい。

(委員) （２）財政的な支援「寄付金を活用した基金の設置などを検討します」とあるが、本当に記載して良いか確認したい。

(委員長) 基金の設置の方法については、民間の金融機関に協力してもらうなど方法は様々であると思う。

(委員) 指針に記載しておかないと、施策として検討しなくなってしまうと思うので、記載したほうが良いと思う。

(委員長) 文末が「検討する」で「必ず実施する」とは言ってないので、記載していて良いと思う。

(委員) （４）ア 活動を始めるための環境づくりについて、これまでの議論で記載することになっているのであれば良いが、急に「子どもの頃から地域活動に参加する機会」というのが出てきて、唐突感があった。

(委員) これまでの議論では、中高生が市民活動に取り組むことの重要性の意見があった。

(委員) アンケートでも人員に関することが多く挙がっていたし、これまでの議論では、例えば、小中学生をインターン生として受け入れたりすることで、団体も勉強になり変わっていくという意見があった。市民活動団体がより開いていくことが重要であると思う。人的支援は、子どものうちから実施していくことが重要であるということになったが、この文章をみるとたしかに唐突感はある。

(委員) 「子どものころから」という捉え方が説明を聞いて理解できた。

(委員) 今のような説明があるとわかりやすい。

(委員) 中高生から地域活動をジブンゴトとして捉えていけば、裾野が広がっていくだろうという意見があった。

(委員) 教育機関と連携して実施していかないと難しいと思う。自分の団体は、半日だけ研修するというやり方であるが、年間を通して関わっていく仕組みを、教育委員会と話し合っていないといけない。実施は難しいとは思いますが方向性として記載しておいてほしい。

(委員) 大切な視点である。

(委員) 「子どもの頃」というのを例えば、「中学生の頃」というとまだ、理解はできる。

(委員) ここでは、あえて「子ども」と表現しているのではないか。現在、不登校など様々な問題があり、中学生は義務教育であるが必ずしも学校に通っているとは限らなくて、ホームスクールとかもある。そういったところを配慮したのではないかと考えていた。

(委員) むしろ、小学生のほうがスッと理解してくれる気がする。小学生のうちに地域と関わっていくことで、まちの問題がジブンゴトとなる。

(委員長) 今の意見にあった、「地域課題を小さいころからジブンゴトとして捉える」のようなことを書いていただければと思う。

(委員) 子どもの頃から地域活動にジブンゴトとして参加する機会を提供すると記載すればよいと思う。

(委員長) 事務局は、文章の整理をお願いしたい。

21 ページに記載のある意見については、文言の整理に関することであるため、事務局で整理をしてもらえればと思う。

続いて、「7 指針の実効性を高めるために」について、23 ページで記載された

(3) 市民等の意識醸成について記載された意見については、さきほどの部分と対応して、必要があれば、修正してほしいと思う。この他に意見がある方、お願いしたい。

(委員) (1) 推進体制の6行目「課題を拾い上げ」とあるが、「拾い上げ」が上から目線の印象があるので、「課題を認識し」または「課題を把握し」に修正しても良いのではないかと考えた。

(委員長) 他ともバランスをみて、修正できるようだったら修正をお願いしたい。

最後に、「指針素案にかかる意見」について、確認する。ここでは、指針を策定してからの話などが記載されているが、意見がある方、お願いしたい。

(委員) 指針素案を読んで、市民の方に読んでいただくにあたり、かなり難しかったのではないかと思います、市民の方のご意見を伺いたいと思った。ただ、具体的にどこを修正したほうがよいという話ではない。

(委員長) 全体を通して、わかりやすい表現にできるかどうか確認してほしいと思う。

(委員) サブタイトルになるかわからないが、ジブンゴトがひとつのキーワードになるかもしれないということで、この指針が市民活動団体が活動しやすい環境をいかに構築できるかが肝ではないかと考える。前回条例の制定の際に実施したパブリックコメントでは、「市からの押し付けではないか」という意見もあったので、そうではないということがうまく伝われば良いと思った。

(委員長) サブタイトルはどのタイミングで決めるのか。意見募集の前までか。

(事務局) 意見募集の実施前ということではない。策定する際に決まっていれば良い。

(委員長) 全体を通して、良い表現なり、キャッチーなタイトルなど皆さんから意見を伺えればと思う。

それでは、ペンディング（保留）となっていた6（6）中間支援組織との連携関することについて、改めてご意見をお願いしたい。

(委員) この項目は、市の施策であるので、市がこれから市民活動センターだけではなく他の中間支援組織とも連携するということに記載するところであると思う。何かそういった文言を追記すれば良いのではないか。

(委員) さきほど、項目のタイトルを変更するという議論もあったし、今ご意見のあった委員の内容で理解したので、このままで良いのではないか。

(委員長) 課題解決ということを強調すると、例えば居場所として機能しているところと助け合いでやっているところが連携した場合、そのことによって、当事者同士がエンパワメントするなど、ネットワークをすることでいろんな効果があると思うし、その団体が継続的に活動することにも意味があると思う。ネットワークとは、様々な意味があるので、文言を補うのは、中々難しいのではないかと思う。

(委員) 「様々な活動分野の中間支援組織が連携する」というのは、市の施策というより「中間支援組織同士が連携して下さい。」ということだと思うので、市がそういったことを促していくということに記載するのはどうか。

(委員) ネットワークをつくるのが目的ではなく、そのネットワークをいかに生かせるかが重要である。別項目であるが、(7) エ 協働の評価と検証について、協働事業を選定した委員の方がそのあとどうなっているかきちんと検証されているかが気になる。選定した委員がその効果を検証してほしいと思う。自分の経験では、一年ごとに見直し・検証はしていたが、それは団体と担当課が行っただけであった。選定した委員や地域の方に評価をしていただく機会が全くなかった。実施してからの学びを生かしていく必要があり、そのためには選定した委員が責任をもって実績を検証していかないといけないと思う。今記載されているのは、ありきたりな内容なので、その辺りを強調して記載してほしい。

(委員長) 具体的にはどのように修正すれば良いか。やり方や内容を詳しく記載するということが。

(委員) 評価については、協働を実施する際の協定書に書かれている内容であるが、誰がどのように実施し、チェックするのかなどの内容をこの指針に記載したいし、これからきちんとやっていくということが重要だと感じている。個人的に、チェック機能は中間支援組織の役割であると考え。ただ、指針にどのように表現すべきかは、思いつかない。

(委員長) 踏み込んで記載すると、「中間支援組織等の第三者による評価・検証」という表現に

するかとか。

(委員) 監査委員会のようなものを設けないとそこまでの評価・検証は難しいのではないか。

今の相互提案協働事業の選考委員会の仕組みは、執行部隊のようなものである。ご意見のあることをやるとしたら、委員会の仕組みを変えるなどしていく必要がある。

(委員長) 業務委託契約か補助金で実施すると思うが、それ自体の事業に強い権限をもってやることはできない。ただ、何が問題であったかを評価して公開することによって、それをベースに次の事業に生かしていきましょうという努力目標は出来ると思う。オープンにしてみんなの目で検証してきましょうということは大事なことだと思う。そうなる
と、今の文脈から修正する必要がある。もう少しオープンな目で客観的に評価・検証しましょうというのを記載してもよいかと思う。そこまで記載するかどうか。

(事務局) 具体的な施策については、これまでの議論にもあったとおりどれも具体的な部分の記述はされていないが、指針策定後、ここに記載された施策をどのように実現していくかをこの委員会で検討していただきたいと思っている。今、議論していただいている

(7) エ協働事業の評価・検証についても、来年度以降、その仕組みを協議し、具体化していきたいと思う。他とのバランスを考え、表現としては素案のような内容が良いのではないかと考える。

(委員長) 中間支援組織が評価・検証する場合、現在の仕様書にその旨の記載がなく、予算の伴う話であれば難しいと思うが、例えば、「第三者の視点も含めて評価検証することにより」という表現にすれば、当事者だけではなく市民一般の目が入り、(その代表が中間支援組織) 第三者の視点を含めるという意味になる。協働事業は、当事者間の PDCA のサイクルで検証することではないと思うので、市民と一緒にやっていく上で、ルール自体もこれでよかったのかを市民の目を入れて検証することは意味のあることだと思う。この趣旨が入られるかどうかは、検討していただきたい。

(事務局) 第三者の視点は私どもも必要であると考え。書き方については検討していただく。具体的な評価・検証の仕組みについては、別途検討していただく。

(委員長) それでは、議論を戻して、(6) 中間支援組織との連携に関することについて、意見がある方お願いしたい。

(委員) 「ネットワークで得られたものを市は施策に生かします。」という文言がないと、単にネットワークをつくるだけと捉えられてしまうという印象があるのかもしれない。市は、中間支援組織のほうが、NPO のことを知っているので、その組織と連携していくことを言いたいのだと思う。

(委員長) この部分については、方向性がまとまらなかったため、引き続き意見を募集したい。この部分以外にも、何か意見がある場合は、事務局に出していただき、いただいた意見は、事務局と正副委員長で検討させていただければと思う。そのような進め方でもよろしいか。本項目については、委員会後に意見がなければ素案に記載してある内容をベースに進めたいと思う。

《委員了承》

(委員長) 意見の募集は、いつまでに意見を出せば良いか。

(事務局) 今後の作業を考えると、明日までに意見がほしい

(委員長) 承知した。意見を出す場合は出来るだけ具体的なものであるとありがたい。

■ 今後のスケジュールと進め方について

事務局から、資料 5 にそって今年度の当委員会のスケジュール及び今後の進め方について説明。

■ その他

特になし